

# 中小企業診断士の視点

第90回

組織マネジメントに人としての器の視点をいれる



中小企業診断士 高橋 香  
(一社)埼玉県中小企業診断協会

「あの人は器が大きい」「わが社のトップは社長の器ではない」など、私たちは人物を評価する際に「器」という言葉を使います。しかし、器とはどんなものか、疑問に思う方も多いでしょう。埼玉県中小企業診断協会のSDMウェルビーイング経営研究会で成人発達理論をベースにした私の「人としての器の成長」についての論文を紹介し、共有しました。本稿ではその論文の一部を紹介します。

## 1. 人としての器の構成要素

300名以上の社会人を対象としたアンケートから器の構成要素4つを抽出しました。



人としての器には外部から見えやすく、変化しやすい「感情」「他者への態度」と外部から見えにくく短期的に変化しにくい「自我統合」「世界の認知」があります。

## 2. 人としての器の成長

人としての器は環境変化を経験することで成長します。人としての器の成長は①器に環境変化の影響を蓄積する (Accumulation)、②器の限界を認識する (Recognition)、③器の拡大、変化を構想する (Conception)、④器が変容し意識や行動が変わる (Transformation)、というフェーズを経ることがわかりました。このフェーズをそれぞれの頭文字をとってARCT (アルクト) モデルと名付けました。人はさまざまな経験を経て、自分の限界を感じると、それを乗り越えるために意識や行動を変え、成長していきます。こうして成長を繰り返して人としての器が広がり、磨かれます。

経営者や管理者としてリーダーシップを伸ばすこと、発揮することにお悩みでしたら埼玉県中小企業診断協会へご相談ください。

### 【問い合わせ先】

(一社) 埼玉県中小企業診断協会  
 ホームページ: <https://sai-smeca.com/>  
 電話: 048-762-3350  
 Eメール: [rmcsai@nifty.com](mailto:rmcsai@nifty.com)